

最新 膵臓がん治療に理解

センター開設 金大病院でセミナー

金大附属病院の革新的膵がん医療研究開発センターキックオフセミナー「未来の膵がん医療を描き実現する」は28日、同病院宝ホールで開かれ、医療関係者ら

約70人が膵臓がんの最新治療や診断検査、他病院と連携した医療システムなどに理解を深めた。

八木真太郎センター長は、膵臓がんの5年生存率は、

が8・5%と他のがんと比べて低く、最も治りにくいがんの一つと指摘。センター開設で、同病院が取り組んできた診療科横断での治療をより強化するとともに、内視鏡による早期診断や病変部の広がりに応じた新たな外科手術の開発などが可能になると強調した。

東京科学大の越川直彦教授は、血液で早期の膵臓がんを診断する手法に関し、研究の成果を説明した。宮澤正樹副センター長は超音波内視鏡検査を紹介し、10ミリに満たない膵臓がんも7割以上発見できると語った。井上大、牧野勇両副センター長らも登壇した。